

齋宮歴史博物館所蔵の品々を特別な
物語とともに深く掘り下げ一品ずつ
テーマを決めてお伝えします。

平成30年度

逸品



～エントランス無料企画展示～

展示紹介



齋宮歴史博物館

第1回 海を越えてやってきた青磁、白磁

期間：平成30年5月29日（火）～7月16日（月・祝）

平安時代の齋宮跡で出土するたくさんの土器の中には、ひときわ異彩を放つものがあります。それが青磁や白磁です。これらは、日本ではなく、中国（唐など）で作られたもので、中国商船によって海を越え、齋宮まで運ばれてきました。この展示では、国の重要文化財にも指定されている2点を展示します。その美しい姿をご堪能ください。



重要文化財：白磁皿・青磁皿



弥生土器壺

第2回 館蔵品の新たな仲間を初披露！

～寄贈資料から紀元前後の齋宮・金剛坂周辺をさぐる～

期間：平成30年7月18日（水）～8月24日（金）

今年の早春、当館では個人の方から弥生土器の壺をご寄贈いただきました。齋宮跡の西限に位置する花園・祓戸地区において、明治時代の開墾時に出土したようです。弥生時代後期（紀元前後頃）の小さな壺ですが、そこに秘められた歴史的意義は大きいと、初披露とともに齋宮・金剛坂周辺をめぐる紀元前後頃をご紹介します。

第3回 博物館学芸員をめざす学生たちが企画します！

期間：平成30年8月26日（日）～10月28日（日）

平成30年度博物館学芸員実習の学生たちによる企画の展示で、今年度は、8大学10人の学生たちが参加予定です。5日間の実習の成果をぜひご覧ください。



画文帯神獸鏡 昨年度の実習の様子
(レプリカ：原資料重要文化財、鳥羽市八代神社所蔵)



金銅製帯金具（重要文化財）
など馬に関連する資料

第4回 齋宮にも馬がいた～齋宮出土の馬具・馬歯～

期間：平成30年10月30日（火）～12月28日（金）

齋宮の馬といえば、お祭りに使用したとされる「土馬」の出土がありますが、その他、齋王が神嘗祭に際して離宮院へ赴く際、馬に乗った女官の一人が橋の破損により馬とともに落下して怪我を負ったとの記録もあります。本当に齋宮に馬はいたのか。馬の存在を示す動かぬ証拠をご紹介します。

第5回 謹賀新年！亥が行列する銅鐸！！

期間：平成31年1月4日（金）～3月3日（日）

博物館の所蔵するレプリカの中に、鈴鹿市磯山で発見された銅鐸があります。現在東京国立博物館が所蔵するこの銅鐸には、最下部のひれと呼ばれる帯状の部分に、列をなしたイノシシとシカの文様があることがレプリカ作成時に確認されました。新年の亥年にちなみ、この銅鐸を紹介し、弥生時代の人々の祭器に込めた願いに想いを馳せます。



鈴鹿市出土 磯山銅鐸
(レプリカ：原資料東京国立博物館所蔵)



土師器高杯（重要文化財）など

第6回 みやこの土器のコピー～平安後期の京都系土師器～

期間：平成31年3月5日（火）～5月19日（日）

齋宮跡、それも齋王の住まいである「内院」とその周辺では、平安時代の後期頃になると、三重県内ではあまり見かけない奇妙な形をした土師器のお皿や、とても白い色をした土器が出土します。実はこれ、平安京で使われていた土器のかたちや特徴を、齋宮周辺の地元の土器作りの人たちがコピーしたもののようです。齋王の身の回りを少しでも京のみやこのようにしようとしたのでしょうか？その出来栄をご覧ください。